

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401350
法人名	(医)NANOグループ
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	〒859-2414 長崎県南島原市南有馬町乙1565-1 (電話)0957-85-3333

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年3月25日

## 【情報提供票より】(H20年1月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和 <del>平成</del> 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 4.5人

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 3,000円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	700	円

### (4)利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	2名	要介護2	0名
要介護3	0名	要介護4	4名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 85歳	最低 68歳	最高 99歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	(医)NANOグループ菜の花クリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院の横の嘗ての院長宅を改造しており、外観は普通の住宅である。国道沿いにあるが、ホーム内は静かで落ち着いた雰囲気であり「狭いながらも楽しい我が家」を実現している。入居者は重度の人が多く、病院の併設で医療面が充実しており、看取りを医療と介護の両面から積極的に全職員が一丸となり実践している。院長がホームの2階に居住しており、1日に何度か入居者の様子を見ながらホーム内を見守り、安心感を与えている。又、職員の態度に重点を置き、講師を招いての接遇マナー研修(年2~3回)を実施し、笑顔で入居者と喜怒哀楽を共に生活を楽しんでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目を真摯に受け止め、カンファレンスで話し合い、出来る事から改善に向け取り組んでいるが、改善計画シートの作成はなく、改善に向けた取り組みは十分とは言えない。改善に向けた取り組みを詳細に決め、達成状況を評価しながら、計画的に実施し、質の向上に努められる事が期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を職員全員に配布し、それぞれ日頃の取組状況を記述後話し合いをし、管理者が集約し実施状況を記述している。自己反省を兼ね、全体的に厳しい評価を実施する事で、ケアの質の向上へ繋げる取り組みを実施している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	併設の菜の花と合同で、2ヶ月毎に地域の代表・地域包括支援センターの担当者・家族の代表・管理者・計画作成担当者・職員の参加により開催している。家族の代表の参加に苦慮しているが、AEDの勉強会等地域からの希望や情報の提供があり、コミュニケーションが取れるようになり成果が上がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	地域の入居者が多く、家族の訪問は月1~2回以上来られており、来所時は、必ず声掛けをし話を聞き、玄関に意見箱を設置し、傾聴の体制をアピールしている。入居者の様子は来所時と電話で伝えているが、生活ぶり・ホーム・介護保険やそれに伴う現状が理解出来る便りの発行により、家族の関心が深まり、忌憚のない意見交換ができる関係の確立が期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	行事は併設のグループホームと合同で菜の花で開催する事が多く、地域の人の来所機会は殆どないが、中学生の体験学習の受け入れやご近所の人と挨拶を交わす事がある。病院の併設で地域の医療機関として利用が多く、理解と馴染みは地域に浸透している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「一人一人の意思及び人格を尊重し自由に安全に生活できる」として、住み慣れた地域のホームで、その人らしく過ごす事を視野に入れて支援する事に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を食堂に大きく掲げ、カンファレンス等で話し、その人の人格を尊重し、会話を持ちながら理念の実践に努めているが、入居者は重度の人が多く、実際のケアと理念の誤差を感じる事が多く、理念に関しては思案中である。		入居者は重度の人が多く、人格は十分尊重しているが自由の面で職員間で話し合う事が多く、理念の実現に不安を抱える事が多く、実現に向けて全職員で検討した介護目標を決め、実践に活かされる事が期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事は関連のグループホームと合同で菜の花 であり、地域の人々の来所の機会は少ないが、中学生の体験学習の受け入れをしたり、ご近所の人と挨拶を交わす事がある。病院の併設で地域の医療機関として利用が多く、理解と馴染みは浸透している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価表を配布し、記入後話し合いをして管理者が集約して記述している。自己反省を兼ね全体的に厳しい評価をしている。しかし、改善項目の話し合いはしているが、改善計画シートの作成は全く計画的とは言えない。		改善計画は話し合いに留まることなく、実施期間・内容を決め、確認する為の評価をする改善計画シートを作成し、計画的に実施できる体制の確立が期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関連の菜の花 と合同で、2ヶ月毎に地域の代表・地域包括支援センターの担当者・家族の代表・管理者・計画作成担当者・職員の参加により開催している。AEDの勉強会等、地域からの希望や情報の提供があり、コミュニケーションが取れ成果が上がっている。		

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	病院の併設であり、直接、市町村担当者との交流はあまりないが、手続きや必要時には行き来をする事はある。現時点では問題がないが、今後前向きに取り組みたいという意向がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化は面会時や電話で連絡しており、金銭管理は同意書を作成して、預かり書を発行し、利用料と領収書を送付し、来所時に了解の記名捺印を得、明確にしている。同時に行事の写真を同封する事はあるが、定期的な便りの作成はない。		家族が入居者の生活・グループホームの理解・介護保険に関する事等、ホームに関心を持ち、要望や相談が日常的にできる関係確立に向け、家族と一緒に向上できる、便りを兼ねたお手紙を個別に作成されることに期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域の入居者が多く、家族の訪問も月1～2回以上は来られている。来所時に必ず声掛けし話を聞くようにしており、玄関に意見箱を設置し、傾聴の体制をアピールしている。今後「グループホームとは」の理解に繋げていく方針である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連法人内で異動はあるが行事を一緒にすることで、入居者は理解しておりダメージは少ない。離職はあまりなく、職員は交流しながら輪を大切にしている。新人は管理者が紹介し十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上は事業所の方針であり、重傷者への対応や医療面を常に学習し、内部では関連法人内の感染対策委員・医療事故防止委員・褥瘡対策委員に所属し学習している。外部研修は掲示板に明示して、希望者は積極的に受講し、カンファレンスで報告する事で全職員で共有し、スキルアップに取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会に所属し、研修やスポーツ大会に参加する事で、他ホームとは顔馴染みである。又、関連法人のグループホームと交流をする事で、互いの優れている点を吸収し、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院に併設しており、入院後に入居する事が多く、職員が病院に行く事があり、顔見馴染みの点から安心しての利用で、入居時の不穏な行動も少なく馴染めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者は人生の先輩である事を認識しており、昔話を教わり、入居者の優しい声掛けや労いの言葉に支えられながら、喜怒哀楽を共にして生活をしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本情報やADLの変化を更新時に変更する事で、生活歴の把握に努め、日頃からの会話の中で入居者の思いを汲み取り、実践に活かす努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の意思を確認し、家族とインテークを取り、職員全員で担当者会議の実施とアセスメントを総合し、「できる事・できない事」を判断した実践可能な介護計画を作成し、家族の同意(記名・捺印)を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期目標を6ヶ月・短期目標を3ヶ月に設定し、3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しを行っている。又、状態変化に伴う見直しも同様に実施している。今後、連動して見れる毎月のモニタリングの書式の工夫が必要であるが、現状に即した計画の見直しが出来ている。</p>		

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望に沿って、医療連携・往診・リハビリへの通院・重度化に伴う看取り・家族の宿泊・訪問利用等、多機能性を活かした柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院に併設しており、院長の自宅がホームの2階に有ることから、24時間指導・相談が仰げる。又、かかりつけの眼科・歯科の受診支援を行い、適切な医療支援を実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	何度か看取りの実施があり、現在も進行中である。看取りに関する指針を明確にし、家族の同意を得ている。今後、病院の併設を活かし、積極的に行っていく方針で、職員の研修・話し合いを繰り返し行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物を放置する事はなく、オムツ交換や病気を安易に話さないように注意を払っている。又、法人で言葉掛けを重視して、講師を招いて年2回以上接遇マナーの講習を実施し、プライバシーに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はできるだけ希望に沿ったケアを目指し努力をしているが、現在の入居者は重度の人が多く、介助に追われる事があり、命を考えてやむなく優先順位をつけざるを得ない時がある。		入居者が車椅子や寝たきりの人が多く、同時に希望があると支援が困難な場合がある。日中3名の職員での食事介助や介護は多忙であり、入居者の状態に沿った勤務体制の見直しが期待される。

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の一部の人が箸並べ・テーブル拭き・食器重ねのお手伝いをしている。重度の方が多く、介助が必要であり、一緒に食事をする事が困難であるが、介助をしながら会話のある食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬季は週2回・夏季はシャワー浴を含め、週3～4回、入浴拒否者は殆どなく、介助により入浴を楽しんでいる。入居間もない寝たきりの入居者には、清拭による清潔保持に努め、今後様子を見て工夫をする予定である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1ヶ月1回の誕生会やテレビ鑑賞(ケーブルテレビを引き込み)を楽しみ、出来る範囲で洗濯物たたみや金銭所持等をしている。活動意欲を触発する物品や行事は入居者の状況に配慮しながら少しずつ行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が全員で外出する事は不可能で、中庭に出たり散歩をする事はあるが、ドライブや買い物と一緒に行事は出来ておらず、施設長に申し出での外出である。		重度の入居者が多く、外出が困難な事は理解できるが、可能な入居者もいる事から、状態を診ながら積極的に外出の機会を取り入れ、日常的に外出できる体制の検討が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	病院からの入居であり、現時点では徘徊傾向の人はなく施錠はしていない。又、一人で外出できる人は少なく、万が一の行方不明者を想定した情報提供用の写真の準備をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体の病院と合同で昼夜を想定した消火・避難訓練を消防署立会いで年2回行っている。又、酸素を利用している人が多く自家発電の準備がある。しかし、地震や水害等の訓練実施はなく、備蓄状況や持ち出し品の把握も出来ていない。		火災訓練の実施はあるが、自然災害(地震・水害等)を想定したマニュアルや訓練を地域の人々の参加で実施される事が期待される。又、それに伴う備蓄や持ち出し品のチェックをされる事が望まれる。

グループホーム 菜の花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの良い食事であり、食材は法人内で一括購入が出来る。入居者の状況により、ミキサー食・刻み・鼻腔栄養を提供しており、水分制限のある方は、記録し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは国道沿いにあるが騒音を感じることなく、居室や場所により暗い所があるが、照明でカバーしている。住宅を改造しており、家庭的な造りで違和感を感じる事なく、エレベーターの設置等、移動にも配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重度に伴い居室で過ごす人が多く、褥瘡に配慮してエアマットを設置している。又、施設からの提供品が多く、個人差はあるが、必要に応じて(コンテナ・テレビ・写真・小物等)持ち込んでいる。		